

2024. 04. 01 より

接種の順番

いろいろな予防接種をどの順番に受けたらよいか迷うことも多いと思います。参考までに当院がおすすめするスケジュールを紹介します。①は1回目、②は2回目のことです。

- (1) 生後 2 か月 肺炎球菌① B 型肝炎① 5 種混合① ロタウイルス①から開始 ただしロタウイルスワクチンは生後 14 週 6 日目までに開始する必要があります。
- (2) 生後 3 か月 3 か月健診と一緒に肺炎球菌② B 型肝炎② 5 種混合② ロタウイルス②
- (3) 生後 4 か月 肺炎球菌③ 5 種混合③
- (4) 生後 5 か月 BCG
- (5) 生後 7 か月から 10 か月 7 か月健診と一緒に B 型肝炎③ (2 回目の接種から 5 か月以上あけて、1 歳までに終了)
- (6) 1 歳になったら 1 歳健診と一緒に麻疹風疹① 水痘① おたふくかぜ① 肺炎球菌④ 5 種混合④
- (7) 2 歳までに 水痘② (1 回目の接種から 3 か月以上あけて)
- (8) 3 歳になったら 日本脳炎①→約 1 か月あけて日本脳炎②
- (9) (8) の 1 年後に日本脳炎③
- (10) 小学校入学前の 1 年間に 麻疹風疹②。おたふくかぜ②も一緒に受けましょう。
3 種混合 (DPT) ⑤ + 不活化ポリオ (IPV) ⑤ の追加接種も推奨されています。
- (11) 9 歳になったら 日本脳炎④
- (12) 11 歳になったら 2 種混合 (DT) もしくは **3 種混合 (DPT)**
- (13) 女子は小学 6 年生から高校 1 年生の間に HPV ワクチン (子宮頸がんワクチン) を 3 回

他に毎年インフルエンザがあります。お子さんの健康状態、受ける (すでに受けた) ワクチンが生か不活か、病気の流行具合、なども考えてスケジュールを決めていくのですが、実際にわかりにくいことが多いと思います。どうぞお気軽にご相談ください。

松井小児科 (0743-74-2705)

接種間隔

ワクチンには生きた細菌やウイルスを弱毒化した生ワクチンと殺して有効な成分だけを取り出した不活化ワクチンがあります。一般に生ワクチンには病原性はありませんが、ウイルスが生きている分効果が強いですが、発熱などの症状がでることがあります。不活化ワクチンは副作用がほとんどないかわりに効果が長続きせず追加接種が必要です。**2020 年 10 月から接種間隔の制限は緩和され、注射生ワクチンどうしの接種のみ 4 週間の間隔が必要になりました。**

普通のかぜなら解熱後 1 週間以上たっていて全身状態がよければ、かぜ症状が残っていても受けられますが、麻疹、風疹、水痘などの罹患した場合 1 か月程度は接種を控えます。川崎病などの治療でガンマグロブリン大量療法を受けた場合は接種まで 6 か月以上の間隔をあけます。